

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 九州財務局長

【提出日】 平成30年11月14日

【四半期会計期間】 第63期第2四半期(自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日)

【会社名】 株式会社M i s u m i

【英訳名】 MISUMI CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 岡 恒憲

【本店の所在の場所】 鹿児島県鹿児島市卸本町7番地20

【電話番号】 099(260)2200(代表)

【事務連絡者氏名】 サポート本部長兼経理部長 今田 和孝

【最寄りの連絡場所】 鹿児島県鹿児島市卸本町7番地20

【電話番号】 099(260)2200(代表)

【事務連絡者氏名】 サポート本部長兼経理部長 今田 和孝

【縦覧に供する場所】 証券会員制法人福岡証券取引所
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第62期 第2四半期 連結累計期間	第63期 第2四半期 連結累計期間	第62期
会計期間		自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高	(千円)	26,041,594	28,683,054	57,463,459
経常利益	(千円)	582,338	464,606	1,319,946
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	433,245	281,948	741,941
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	758,439	535,048	854,475
純資産額	(千円)	16,525,654	16,929,838	16,510,294
総資産額	(千円)	34,666,224	36,045,283	35,378,886
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	71.65	46.70	122.75
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	46.99	46.27	45.97
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	635,657	763,208	701,334
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	295,975	1,023,187	1,343,856
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	88,216	486,471	79,818
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	5,074,145	4,486,468	4,259,976

回次		第62期 第2四半期 連結会計期間	第63期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	31.54	25.97

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における当社グループの営業基盤である南九州の経済は、生産活動や消費関連は緩やかな回復基調を維持しているものの、人口減少を背景とした人材確保難と労働単価の上昇による人件費の増加など、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中で当社グループは、主力のエネルギー関連商品の販売シェアの拡大に向け、法人顧客の新規開拓や既存顧客に対する増販活動に注力するとともに、平成30年5月からLPガスの集中監視システムの導入を本格的に開始し、業務の効率化とIoT利用による顧客満足度の向上に取り組んでおります。また、既存店舗の活性化等を目的とした店舗リニューアルを進める一方で、「店舗オペレーションの強化」と「お客様との接点強化」による信頼関係の構築に取組みました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高はエネルギー関連商品の販売価格が上昇したことにより286億83百万円（前年同四半期比10.1%増）となりましたが、石油関連商品の販売数量の減少に加え、労働コストの上昇による人件費の増加及びブックスミス日向店（宮崎県日向市）のオープンに伴う費用が増加したこと等により、経常利益は4億64百万円（前年同四半期比20.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億81百万円（前年同四半期比34.9%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

1 エネルギー

「エネルギー」セグメントの石油部門では、「ENEOSカード」等の積極的な発券活動によるユーザーの囲い込みや、法人顧客の新規獲得強化による燃料油の増販及び油外商品の拡販に努めました。

ガス部門においては、訪問活動による新規顧客の開拓やガス関連商品の提案等によるお客様との関係強化に取り組むとともに、5月からLPガスの集中監視システムの導入を開始し、自動検針による人件費の抑制や配送業務の効率化を進めております。

以上の結果、原油価格やLPガス輸入価格の影響に伴い、エネルギー関連商品の販売価格の上昇が続き、売上高は225億69百万円（前年同四半期比13.4%増）となりましたが、石油関連商品の販売数量の減少に加え、収益改善が図れなかったことで、セグメント利益（営業利益）は3億22百万円（前年同四半期比4.1%減）となりました。

2 ライフスタイル

「ライフスタイル」セグメントのカルチャー部門では、利便性を考慮した売場レイアウトの変更を実施するとともに、非効率なエリアの商品入替を進めることで、お客様の幅広いニーズに合わせた店舗作りに努めました。また、7月にはブックスミスミ日向店(宮崎県日向市)をK F C日向店と同じ敷地内に新築移転オープンいたしました。一方、採算の悪化していたメディアミスミT S U T A Y A南港店(鹿児島市)を8月末で閉店いたしました。

自動車部門においては、出張展示会の開催による集客を図り、新車販売の増販に努めるとともに、タイヤ販売における新規取引先の開拓と売れ筋商品の販売に注力し、収益確保に努めました。

ホームライフ部門では、新築・リフォーム物件の展示会、相談会を実施することで集客を図るなど、新規受注獲得に努めました。

以上の結果、カルチャー部門の売上改善が図れなかったこと等により、売上高は33億23百万円(前年同四半期比4.4%減)、セグメント利益(営業利益)はブックスミスミ日向店のオープンに伴う費用の発生等により、23百万円(前年同四半期比86.7%減)となりました。

3 フード&ピバレッジ

「フード&ピバレッジ」セグメントの外食部門では、主力形態であるK F Cにおいて、5月にK F C花ヶ島店(宮崎市)の改装を実施するとともに、コスト管理とオペレーション力の強化に努めました。

ミネラルウォーター部門では、通信販売での購入層を中心としたキャンペーンを実施するなど、宅配売上の強化に努めました。

以上の結果、K F Cのキャンペーンが好調だったことにより、売上高は27億89百万円(前年同四半期比4.7%増)、セグメント利益(営業利益)は2億49百万円(前年同四半期比28.1%増)となりました。

(上記金額には、消費税等は含まれておりません。)

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて6億66百万円増加し、360億45百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が減少した一方、現金及び預金や有形固定資産が増加したこと等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて2億46百万円増加し、191億15百万円となりました。これは主に、買掛金や未払法人税等が減少した一方、借入金等が増加したこと等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて4億19百万円増加し、169億29百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が増加したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、固定資産の取得9億84百万円、法人税等の支払い2億80百万円及びたな卸資産の増加2億44百万円等の資金の減少がありましたが、売上債権の減少7億59百万円、借入金の増加6億9百万円及び税金等調整前四半期純利益4億65百万円等の資金の増加により、前連結会計年度末に比べ2億26百万円増加し、当第2四半期連結累計期間末は44億86百万円(前年同四半期末比11.6%減)となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加額は、7億63百万円(前年同四半期比20.1%増)となりました。これは主に、法人税等の支払い2億80百万円、たな卸資産の増加2億44百万円及び仕入債務の減少2億17百万円等の資金の減少がありましたが、売上債権の減少7億59百万円、税金等調整前四半期純利益4億65百万円及び減価償却費3億33百万円等の資金の増加によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少額は、10億23百万円(前年同四半期比245.7%増)となりました。これは主に、固定資産の取得9億84百万円等の資金の減少によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の増加額は、4億86百万円(前年同四半期は88百万円の減少額)となりました。これは主に、配当金の支払い1億2百万円等の資金の減少がありましたが、借入金の増加6億9百万円等の資金の増加によるものであります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,100,503	同左	証券会員制法人 福岡証券取引所	単元株式数は、100株であります。
計	6,100,503	同左		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年9月30日		6,100,503		1,690,899		1,646,341

(5) 【大株主の状況】

平成30年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
三角開発(株)	鹿児島県始良市蒲生町久末2489 - 1	1,613	26.73
J X T Gホールディングス(株)	東京都千代田区大手町1丁目1 - 2	779	12.92
住友生命保険(相)	東京都中央区築地7丁目18 - 24	332	5.50
(株)三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	301	5.00
(株)鹿児島銀行	鹿児島市金生町6 - 6	301	5.00
東洋ゴム工業(株)	兵庫県伊丹市藤ノ木2丁目2番13号	183	3.03
三角 皓三郎	鹿児島市伊敷台	180	2.99
ミスミ取引先持株会	鹿児島市卸本町7番地20	172	2.85
三角 征四郎	鹿児島市喜入瀬々串町	146	2.43
(株)福岡銀行	福岡市中央区天神2丁目13 - 1	141	2.35
計		4,152	68.80

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 64,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,035,700	60,357	
単元未満株式	普通株式 503		
発行済株式総数	6,100,503		
総株主の議決権		60,357	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式69株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株M i s u m i	鹿児島市卸本町7番地20	64,300		64,300	1.1
計		64,300		64,300	1.1

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成30年7月1日から平成30年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,074,676	5,301,768
受取手形及び売掛金	1 5,311,229	1 4,566,204
商品及び製品	2,442,727	2,666,443
仕掛品	2,802	26,017
原材料及び貯蔵品	34,967	32,903
その他	551,618	598,213
貸倒引当金	80,850	114,214
流動資産合計	13,337,170	13,077,336
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,768,380	4,434,692
土地	12,034,438	12,034,684
その他(純額)	1,437,303	1,235,476
有形固定資産合計	17,240,122	17,704,852
無形固定資産	219,923	322,040
投資その他の資産		
その他	4,769,441	5,130,692
貸倒引当金	187,771	189,638
投資その他の資産合計	4,581,669	4,941,053
固定資産合計	22,041,715	22,967,947
資産合計	35,378,886	36,045,283
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,797,363	1,580,072
短期借入金	4,160,000	4,315,000
1年内返済予定の長期借入金	2,691,831	2,827,000
未払法人税等	310,489	191,686
賞与引当金	262,820	260,330
厚生年金基金解散損失引当金	267,514	267,514
その他	1,897,117	1,733,458
流動負債合計	11,387,135	11,175,062
固定負債		
長期借入金	5,709,989	6,028,989
役員退職慰労引当金	612,300	629,800
その他	1,159,168	1,281,593
固定負債合計	7,481,457	7,940,382
負債合計	18,868,592	19,115,445

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,690,899	1,690,899
資本剰余金	1,646,600	1,646,600
利益剰余金	12,187,971	12,367,248
自己株式	98,498	105,336
株主資本合計	15,426,973	15,599,412
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	838,559	1,070,602
退職給付に係る調整累計額	2,753	6,776
その他の包括利益累計額合計	835,806	1,077,378
非支配株主持分	247,514	253,047
純資産合計	16,510,294	16,929,838
負債純資産合計	35,378,886	36,045,283

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	26,041,594	28,683,054
売上原価	20,451,213	23,065,258
売上総利益	5,590,380	5,617,795
販売費及び一般管理費	1 5,172,913	1 5,333,633
営業利益	417,467	284,162
営業外収益		
受取利息	1,421	1,422
受取配当金	36,998	39,029
受取賃貸料	54,262	64,105
その他	145,490	136,927
営業外収益合計	238,173	241,484
営業外費用		
支払利息	30,142	29,744
賃貸費用	5,976	6,358
固定資産除却損	10,748	12,523
その他	26,435	12,414
営業外費用合計	73,302	61,040
経常利益	582,338	464,606
特別利益		
固定資産売却益	2,855	184
収用補償金	-	482
特別利益合計	2,855	667
特別損失		
固定資産売却損	800	38
特別損失合計	800	38
税金等調整前四半期純利益	584,393	465,234
法人税、住民税及び事業税	129,104	164,780
法人税等調整額	1,050	8,195
法人税等合計	130,154	172,976
四半期純利益	454,238	292,258
非支配株主に帰属する四半期純利益	20,993	10,310
親会社株主に帰属する四半期純利益	433,245	281,948

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	454,238	292,258
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	275,665	232,042
退職給付に係る調整額	28,534	10,747
その他の包括利益合計	304,200	242,789
四半期包括利益	758,439	535,048
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	736,197	523,521
非支配株主に係る四半期包括利益	22,242	11,527

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	584,393	465,234
減価償却費	279,339	333,559
固定資産除却損	10,748	12,523
のれん償却額	17,200	17,026
貸倒引当金の増減額(は減少)	15,409	35,231
賞与引当金の増減額(は減少)	339	2,490
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	188,640	17,500
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	5,050	8,486
受取利息及び受取配当金	38,420	40,451
支払利息	30,142	29,744
固定資産売却損益(は益)	2,055	145
受取保険金	2,902	622
売上債権の増減額(は増加)	658,471	759,603
たな卸資産の増減額(は増加)	4,232	244,866
仕入債務の増減額(は減少)	344,700	217,291
その他	21,788	140,212
小計	987,576	1,032,830
利息及び配当金の受取額	38,432	40,399
利息の支払額	28,946	30,354
保険金の受取額	2,902	336
法人税等の支払額	364,306	280,004
営業活動によるキャッシュ・フロー	635,657	763,208
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	2,600	600
固定資産の取得による支出	423,589	984,597
固定資産の売却による収入	32,189	1,337
投資有価証券の取得による支出	13,272	14,487
差入保証金の差入による支出	6,933	15,798
差入保証金の回収による収入	20,101	789
貸付けによる支出	-	10,172
貸付金の回収による収入	1,069	2,653
保険積立金の解約による収入	95,313	-
その他	1,745	2,312
投資活動によるキャッシュ・フロー	295,975	1,023,187
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	150,000	300,000
短期借入金の返済による支出	230,000	145,000
長期借入れによる収入	1,556,000	2,000,000
長期借入金の返済による支出	1,438,582	1,545,831
リース債務の返済による支出	3,138	7,171
自己株式の取得による支出	7,698	6,837
配当金の支払額	108,802	102,693
非支配株主への配当金の支払額	5,995	5,995
財務活動によるキャッシュ・フロー	88,216	486,471
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	251,465	226,492
現金及び現金同等物の期首残高	4,822,679	4,259,976
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,074,145	4,486,468

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

記載すべき事項はありません。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日至平成30年9月30日)	
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。	

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
受取手形	318,231千円	247,962千円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
貸倒引当金繰入額	15,409千円	35,231千円
給料及び手当	1,084,589 "	1,118,079 "
賞与引当金繰入額	254,241 "	254,586 "
役員退職慰労引当金繰入額	6,360 "	18,143 "
退職給付費用	95,681 "	66,896 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
現金及び預金	5,888,245千円	5,301,768千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	814,100 "	815,300 "
現金及び現金同等物	5,074,145千円	4,486,468千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月23日 定時株主総会	普通株式	108,864	18	平成29年3月31日	平成29年6月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年11月9日 取締役会	普通株式	102,746	17	平成29年9月30日	平成29年12月5日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月27日 定時株主総会	普通株式	102,672	17	平成30年3月31日	平成30年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年11月9日 取締役会	普通株式	102,614	17	平成30年9月30日	平成30年12月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エネルギー	ライフ スタイル	フード& ビバレッジ	計		
売上高						
外部顧客への売上高	19,902,912	3,475,501	2,663,181	26,041,594		26,041,594
セグメント間の内部 売上高又は振替高	10,832	60,608	13,174	84,615	84,615	
計	19,913,744	3,536,110	2,676,355	26,126,210	84,615	26,041,594
セグメント利益	336,416	177,841	194,929	709,187	291,719	417,467

(注) 1 セグメント利益の調整額 291,719千円には、セグメント間取引消去2,737千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 294,457千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エネルギー	ライフ スタイル	フード& ビバレッジ	計		
売上高						
外部顧客への売上高	22,569,888	3,323,713	2,789,451	28,683,054		28,683,054
セグメント間の内部 売上高又は振替高	12,274	43,906	13,360	69,541	69,541	
計	22,582,163	3,367,620	2,802,812	28,752,596	69,541	28,683,054
セグメント利益	322,680	23,597	249,645	595,923	311,761	284,162

(注) 1 セグメント利益の調整額 311,761千円には、セグメント間取引消去2,482千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 314,243千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
1株当たり四半期純利益	71円65銭	46円70銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	433,245	281,948
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	433,245	281,948
普通株式の期中平均株式数(株)	6,046,719	6,038,006

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第63期(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)中間配当については、平成30年11月9日開催の取締役会において、平成30年9月30日の最終の株主名簿に登録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	102,614千円
1株当たりの金額	17円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成30年12月5日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月6日

株式会社M i s u m i

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川 畑 秀 二 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 寺 田 篤 芳 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社M i s u m i の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成30年7月1日から平成30年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社M i s u m i 及び連結子会社の平成30年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。